構造力学基礎演習

Exercises in Fundamental of Structural Mechanics

数日連絡先	教員名	多田元苗	合 木 🌣	4 海野草	h 土					
(研究室所在地・TEL) 電話: 06-6879-7355 まいの意容に対し、 で表し、 でありまし、 では、 でありまし、 では、 では、		多田元英,倉本洋,瀧野敦夫								
E-MAIL アドレス										
歴修対象										
単位 1 セメスター 3 受講条件 構造力学基礎を受講していることが望ましい。 建築構造物の構造解析法に関する基礎的な理解を深めるために、建築骨組の構成要素に対する力学と基本的な構造形式の解析法について、演習に基づいて習得することを目指す。 学習・教育目標 A B C D E F G H 授業計画・概要 デ留・教育目標 定および力の約合い(2回) # F G H 静定・不静定はよび力の約合い(2回) いくつかの例題を用いて材料・構造力学の基礎となる静力学の基本事項に関して演習を行う。(包括2回) A D 施定業(6 回) について理解を深めるとともに、種々の静定楽の解析に関して演習を行う。(包括6回) A D 応力とひずみとからの演習を行なうとともに部材断面の断面積や断面二次モーメント等の断面諸量を求めるための演習を行なうとともに部材断面の断面積や断面二次モーメント等の断面諸量を求めるための演習を行い、これらの諸量と応力・ひずみをの関係について理解を深めるとめ間(名口) A D 静定トラスの解析に関する演習を行う。(包括4回) サイ恒善編者「建業構造力学図説・演習1」 A D 教科書 中村恒善編者「建業構造力学図説・演習1」 Strength of Materials、S. P. Timoshenko, McGraw-Hill DICついてはレポートで評価する (70%)。 機算価方法・評価基準 はこついてはレポートで評価する (70%)。 A D 株理 DICついてはレポートで評価する (70%)。 A D A D	·									
受講条件 構造力学基礎を受講していることが望ましい. 授業の教育目的・目標他科目との関連 建築構造物の構造解析法に関する基礎的な理解を深めるために、建築骨組の構成要素に対する力学と基本的な構造形式の解析法について、演習に基づいて習得することを目指す。 学習・教育目標 A B C D E F G H 投業計画・概要 デーマ 概要 学習・教育目標										
授業の教育目的・目標 他科目との関連建築構造物の構造解析法に関する基礎的な理解を深めるために、建築骨組の構成要素に対する力学と基本的な構造形式の解析法について、演習に基づいて習得することを目指す。学習・教育目標A B C D E F G HO D を P を P を P を P を P を P を P を P を P を										
他科目との関連 構成要素に対する力学と基本的な構造形式の解析法について、演習に基づいて習得することを目指す。 学習・教育目標 A B C D E F G H 投業計画・概要 デコ・教育目標 定および力 の釣合い (2回) 静定・不静 定および力 の釣合い (2回) いくつかの例題を用いて材料・構造力学の基礎 となる静力学の基本事項に関して演習を行う。(包括2回) (2回) いくつかの例題を用いて静定梁の解析法 (2回) 応力とひず み (4回) いくつかの例題を用いて、軸力や曲げモ み (4回) 応力とひず み (4回) いくつかの例題を用いて、軸力や曲げモ み (4回) 応力とひず み (4回) いくつかの例題を用いて、軸力や曲げモ み (4回) かとしまで 表 の (2話 6回) いくつかの例題を用いて (2を受ける部材の応力とひずみを 表 水の (2を受ける部材の応力とひずみを 水の (2を受ける部分でな 2をともに (2を受けるの) (2を受ける 2を受ける 2を使ける 2を使りる 2を使ける 2を使ける 2を使ける 2を使ける 2を使ける 2を使ける 2を使ける 2を使ける 2を使ける 2を										
学習・教育目標 A B C D E F G H 授業計画・概要 デーマ 概要 学習・教育目標 静定・不静 定および力 の釣合い (2回) 静定梁 (6 いくつかの例題を用いて静定梁の解析法 及の静定梁の解析に関して演習を行う。(包括6回) いくつかの例題を用いて・種々の静定梁の解析に関して演習を行う。(包括6回) 応力とひず み (4回) 小とひず み (4回) いくつかの例題を用いて、軸力や曲げモ ーメントを受ける部材の応力とひずみを求めるための演習を行なうとともに部材 断面の断面積や断面ニ次モーメント等の断面請量を求めるための演習を行い、これらの諸量と応力・ひずみとの関係について理解を深めるとともに、相々の静定トラスの解析に関する方のの側を用いて静定トラスの解析に関する演習を行う。(包括3回) 教科書 中村恒善編書「建築構造力学図説・演習 I」 教科書 中村恒書編書「建業構造力学図説・演習 I」 教別書 中村恒書編書「建業構造力学図説・演習 I」 教科書 中村恒書編書「建業構造力学図説・演習 I」 教書の書・文献等 Strength of Materials, S. P. Timoshenko, McGraw-Hill 成績評価方法・評価基準 中村恒書編書「建業構造力学図説・演習 I」 教書の書・文献等 Dについてはレポートで評価する (70%)。Aについては講義時に行う小レポートで評価する (30%)。		建築構造物の構造解析法に関する基礎的な理解を深めるために、建築骨組の								
学習・教育目標 A B C D E F G H O の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	他科目との関連	構成要素に対する力学と基本的な構造形式の解析法について、演習に基づいて								
日本		習得することを目指す。								
日本										
授業計画・概要	学習・教育目標	A	В	С	D	Е	F	G	Н	
静定・不静 定および力 の釣合い (2回) いくつかの例題を用いて材料・構造力学の基礎 となる静力学の基本事項に関して演習を行う。(包括2回) A D 静定梁 (6 回) いくつかの例題を用いて静定梁の解析法 について理解を深めるとともに、種々の 静定梁の解析に関して演習を行う。(包括6回) A D 応力とひず み (4回) いくつかの例題を用いて、軸力や曲げモ ーメントを受ける部材の応力とひずみを 求めるための演習を行なうとともに部材 断面の断面積や断面二次モーメント等の 断面諸量を求めるための演習を行い、こ れらの諸量と応力・ひずみとの関係につ いて理解を深める。(包括4回) A D 静定トラ ス (3回) 前法について理解を深めるとともに、 種々の静定トラスの解析に関する演習を 行う。(包括3回) A D 教科書 中村恒善編著「建築構造力学図説・演習Ⅰ」 参考図書・文献等 Strength of Materials, S. P. Timoshenko, McGraw-Hill Dについてはレポートで評価する (70%)。 Aについては講義時に行う小レポートで評価する (30%)。		0			0					
定および力 の約合い (2回)	授業計画・概要	テーマ	概要					学習	•教育目標	
の釣合い (2回)		静定・不静	――――――――――――――――――――――――――――――――――――							
(2回)		定および力	とな	る静力学の	の基本事項	頁に関して	て演習を	行		
静定梁 (6 回)いくつかの例題を用いて静定梁の解析法 について理解を深めるとともに、種々の静定梁の解析に関して演習を行う。(包括6回)応力とひず いくつかの例題を用いて、軸力や曲げモ み (4回)いくつかの例題を用いて、軸力や曲げモ み (4回)か (4回)・メントを受ける部材の応力とひずみを求めるための演習を行なうとともに部材断面の断面積や断面二次モーメント等の断面諸量を求めるための演習を行い、これらの諸量と応力・ひずみとの関係について理解を深める。(包括4回)静定トラ いくつかの例題を用いて静定トラスの解析に関する演習を行う。(包括3回)・いくつかの例題を用いて静定トラスの解析に関する演習を行う。(包括3回)教科書中村恒善編著「建築構造力学図説・演習 I」参考図書・文献等Strength of Materials、S. P. Timoshenko, McGraw-Hill 成績評価方法・評価基といてはレポートで評価する (70%)。本については対ポートで評価する (30%)。		の釣合い	う。	(包括2回)					
静定梁 (6 回)いくつかの例題を用いて静定梁の解析法 について理解を深めるとともに、種々の静定梁の解析に関して演習を行う。(包括6回)応力とひず いくつかの例題を用いて、軸力や曲げモ み (4回)いくつかの例題を用いて、軸力や曲げモ み (4回)か (4回)・メントを受ける部材の応力とひずみを求めるための演習を行なうとともに部材断面の断面積や断面二次モーメント等の断面諸量を求めるための演習を行い、これらの諸量と応力・ひずみとの関係について理解を深める。(包括4回)静定トラ いくつかの例題を用いて静定トラスの解析に関する演習を行う。(包括3回)・いくつかの例題を用いて静定トラスの解析に関する演習を行う。(包括3回)教科書中村恒善編著「建築構造力学図説・演習 I」参考図書・文献等Strength of Materials、S. P. Timoshenko, McGraw-Hill 成績評価方法・評価基といてはレポートで評価する (70%)。本については対ポートで評価する (30%)。		(2回)								
静定梁の解析に関して演習を行う。(包括6回) 応力とひず み (4回) いくつかの例題を用いて、軸力や曲げモ み (4回) A D み (4回) ーメントを受ける部材の応力とひずみを 求めるための演習を行なうとともに部材 断面の断面積や断面二次モーメント等の 断面諸量を求めるための演習を行い、こ れらの諸量と応力・ひずみとの関係につ いて理解を深める。(包括4回) A D 静定トラ ス (3回) が法について理解を深めるとともに、 種々の静定トラスの解析に関する演習を 行う。(包括3回) A D 教科書 中村恒善編著「建築構造力学図説・演習 I」 参考図書・文献等 Strength of Materials, S. P. Timoshenko, McGraw-Hill 成績評価方法・評価基 進 Dについてはレポートで評価する (70%)。 Aについては講義時に行うハレポートで評価する (30%)。										
回)		回)	につ	いて理解	を深める	るとともり	こ、種々の	の		
応力とひず み (4回) いくつかの例題を用いて、軸力や曲げモ ーメントを受ける部材の応力とひずみを 求めるための演習を行なうとともに部材 断面の断面積や断面二次モーメント等の 断面諸量を求めるための演習を行い、こ れらの諸量と応力・ひずみとの関係につ いて理解を深める。(包括 4 回) A D 静 定 ト ラ ス (3 回) いくつかの例題を用いて静定トラスの解 所法について理解を深めるとともに、 種々の静定トラスの解析に関する演習を 行う。(包括 3 回) A D 教科書 中村恒善編著「建築構造力学図説・演習 I」 参考図書・文献等 Strength of Materials, S. P. Timoshenko, McGraw-Hill 成績評価方法・評価基 成績評価方法・評価基 Dについてはレポートで評価する (70%)。 A については講義時に行う小レポートで評価する (30%)。			静定	梁の解析	に関して	演習を行	う。(包括	i 6		
み(4回)ーメントを受ける部材の応力とひずみを求めるための演習を行なうとともに部材断面の断面積や断面二次モーメント等の断面諸量を求めるための演習を行い、これらの諸量と応力・ひずみとの関係について理解を深める。(包括 4 回)静定トラスの解析に関する演習を行い、これらの諸量と応力・ひずみとの関係について理解を深めるとともに、種々の静定トラスの解析に関する演習を行う。(包括 3 回)教科書中村恒善編著「建築構造力学図説・演習 I」参考図書・文献等Strength of Materials, S. P. Timoshenko, McGraw-Hill成績評価方法・評価基と応力・ひずみとの関係についてはレポートで評価する(70%)。本についてはレポートで評価する(30%)。			回)							
求めるための演習を行なうとともに部材 断面の断面積や断面二次モーメント等の 断面諸量を求めるための演習を行い、これらの諸量と応力・ひずみとの関係について理解を深める。(包括 4 回)A D静定トラコスのの例題を用いて静定トラスの解えていて理解を深めるとともに、種々の静定トラスの解析に関する演習を行う。(包括 3 回)A D教科書中村恒善編著「建築構造力学図説・演習 I」参考図書・文献等Strength of Materials、S. P. Timoshenko、McGraw-Hill成績評価方法・評価基準Dについてはレポートで評価する (70%)。準Aについては講義時に行う小レポートで評価する (30%)。										
断面の断面積や断面二次モーメント等の 断面諸量を求めるための演習を行い、これらの諸量と応力・ひずみとの関係について理解を深める。(包括 4 回)A D静定トラスの例題を用いて静定トラスの解析に関する演習を 大の(3 回)が法について理解を深めるとともに、 種々の静定トラスの解析に関する演習を 行う。(包括 3 回)教科書中村恒善編著「建築構造力学図説・演習 I」参考図書・文献等Strength of Materials, S. P. Timoshenko, McGraw-Hill成績評価方法・評価基Dについてはレポートで評価する (70%)。 Aについては講義時に行う小レポートで評価する (30%)。		み (4回)	み(4回) ーメントを受ける部材の応力とひずみを							
れらの諸量と応力・ひずみとの関係について理解を深める。(包括 4 回)静定トラ いくつかの例題を用いて静定トラスの解 A D静定トラ いくつかの例題を用いて静定トラスの解		断面諸量を求めるための演習を行い、これらの諸量と応力・ひずみとの関係につ								
教科書いて理解を深める。(包括 4 回)静定トラ ス(3 回)析法について理解を深めるとともに、種々の静定トラスの解析に関する演習を行う。(包括 3 回)教科書中村恒善編著「建築構造力学図説・演習 I」参考図書・文献等Strength of Materials, S. P. Timoshenko, McGraw-Hill成績評価方法・評価基Dについてはレポートで評価する(70%)。 Aについては講義時に行う小レポートで評価する(30%)。										
静定トラ ス(3回)いくつかの例題を用いて静定トラスの解 析法について理解を深めるとともに、 種々の静定トラスの解析に関する演習を 行う。(包括3回)教科書中村恒善編著「建築構造力学図説・演習 I」参考図書・文献等Strength of Materials, S. P. Timoshenko, McGraw-Hill成績評価方法・評価基Dについてはレポートで評価する(70%)。 Aについては講義時に行う小レポートで評価する(30%)。										
ス(3回)析法について理解を深めるとともに、種々の静定トラスの解析に関する演習を行う。(包括3回)教科書中村恒善編著「建築構造力学図説・演習 I」参考図書・文献等Strength of Materials, S. P. Timoshenko, McGraw-Hill成績評価方法・評価基Dについてはレポートで評価する(70%)。 Aについては講義時に行う小レポートで評価する(30%)。										
教科書中村恒善編著「建築構造力学図説・演習 I」参考図書・文献等Strength of Materials, S. P. Timoshenko, McGraw-Hill成績評価方法・評価基Dについてはレポートで評価する(70%)。 Aについては講義時に行う小レポートで評価する(30%)。		ス(3回) 析法について理解を深めるとともに、								
教科書中村恒善編著「建築構造力学図説・演習 I」参考図書・文献等Strength of Materials, S. P. Timoshenko, McGraw-Hill成績評価方法・評価基Dについてはレポートで評価する(70%)。 Aについては講義時に行う小レポートで評価する(30%)。										
教科書中村恒善編著「建築構造力学図説・演習 I」参考図書・文献等Strength of Materials, S. P. Timoshenko, McGraw-Hill成績評価方法・評価基Dについてはレポートで評価する(70%)。準Aについては講義時に行う小レポートで評価する(30%)。										
参考図書・文献等Strength of Materials, S. P. Timoshenko, McGraw-Hill成績評価方法・評価基Dについてはレポートで評価する(70%)。準Aについては講義時に行う小レポートで評価する(30%)。			行う	。(包括:	3 回)					
成績評価方法・評価基Dについてはレポートで評価する (70%)。準Aについては講義時に行う小レポートで評価する (30%)。	教科書	中村恒善編著「建築構造力学図説・演習!」								
準 Aについては講義時に行う小レポートで評価する(30%)。	参考図書・文献等	Strength of	Strength of Materials, S. P. Timoshenko, McGraw-Hill							
	成績評価方法・評価基	Dについてはレポートで評価する (70%)。								
オフィスアワー 随時 e-mail にて対応	準	Aについては	講義時	に行う小	<u>レポー</u> トで	評価する	(30%)。			
S I S I S S S S S S S S S S S S S S S S	オフィスアワー	随時 e-mail(随時 e-mail にて対応							
コメント 構造力学の基礎となる演習なので十分な理解が望ましい。	コメント	構造力学の基礎となる演習なので十分な理解が望ましい。								